

農の風景育成計画書

1 育成地区の概況

申請者名	調布市	名称	深大寺・佐須地域農の風景育成地区
------	-----	----	------------------

位置	調布市深大寺南町1, 2, 4丁目及び佐須町4丁目の各一部
----	-------------------------------

育成地区の面積	17.6ha	地区の面積に占める割合	
うち農地の合計面積	4.9ha	27.8%	
うち生産緑地地区の合計面積	4.3ha	農地面積における構成比	87.8%
宅地化農地の合計面積	0.6ha		12.2%

※ 面積割合及び構成比は小数第一位まで

育成地区の概観	
<ul style="list-style-type: none"> 地区全体は、国分寺崖線から入り込んだ谷戸地形にあり、「はげ」の湧水による用水路に沿って、南北に生産緑地（農地）や屋敷林等が大規模に分布し、武蔵野の面影を残す水と緑の豊かな里山の風景が感じられる場所である。 佐須神明宮等の大規模な屋敷林があり、まとまったみどりが残っている。 相続の発生に伴う生産緑地の買取りの申出を受け、平成29年に調布市土地開発公社により先行取得した土地については、平成30年度から小学校児童を対象とした農業体験の場としての環境教育や環境市民団体による環境学習、市民団体による深大寺固有種である蕎麦の保全・育成の場として暫定活用している。 深大寺自然広場のカニ山（樹林地）においては、市民団体が樹林の保存のための活動を行ない、市民協働による環境保全活動を行っている。 深大寺自然広場には市が管理する野草園があり、約300種1万本以上の野草を見ることができる。 都立農業高校神代農場には豊富な自然が残されており、保全と保護を図るため、都立農業高校と市とで相互連携基本協定を締結し、毎年度神代農場を活用した環境の公開講座を開催している。 地区の南部においては、市民団体が田んぼの体験を通して地域の環境保全活動を行っている。 用水路の水を確保すること、また非常時には防災用井戸として活用するための井戸を設置している。 地区内には、地域の農業や歴史、環境情報を紹介した看板を設置し、地域を大切にす気持ちの醸成を図っている。 都市部においては貴重な里山等の環境を保全する活動並びにその歴史及び文化を広める活動を支援するため、地区近隣に「調布市佐須農（みのり）の家」を設置している。 	

育成地区を構成する主要要素の立地状況	
<ul style="list-style-type: none"> 生産緑地…18件、約4.3ha 公園・緑地…都立農業高校神代農場、深大寺自然広場（野草園、カニ山キャンプ場を含む） 神社・寺・史跡…佐須神明宮 教育施設…柏野小学校 	

※ 育成地区を構成する主要要素の立地状況を示す図は、別紙、現況図のとおり

2 地区と既定の計画等との関連

別表第1に掲げる都市計画等
<p>区域区分：市街化区域</p> <p>地域地区：第一種低層住居専用地域（建ぺい率40％，容積率80％）、生産緑地地区（18件）</p> <p>都市施設：都市計画公園・緑地（神代公園）</p>
緑の基本計画
<p>「調布市緑の基本計画」（平成23年3月改定）において重点計画の1つとして掲げている「農（みのり）の里計画 ～武蔵野のくらしの文化を伝える農の里づくり～」の対象地区の1つ（深大寺・佐須地区）に含まれる。</p> <p>同地区の方針として、「佐須の用水や深大寺自然広場，都立農業高校神代農場等を中心に，周辺の田んぼや畑を市民の農業体験の場として活用し，農業体験や自然とふれあえる空間づくりを検討する」ことを掲げている。</p>
農業振興計画等
<p>「調布市農業振興計画」（令和2年3月策定）では，将来像「くらし彩る調布市農業～持続可能な農業を目指して～」とし，基本方針3「農地の保全・活用」の「農のあるまちづくりの推進」に「深大寺・佐須地域の里山・里地の保全と活用」を掲げている。</p> <p>取組内容には「深大寺・佐須地域の農（みのり）の里において取得された公有地の農業公園化の検討」を，JA，国・東京都等と連携して推進することを，重点的に取り組む項目として掲げている。</p>
その他育成地区に係る行政計画等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該地域の豊かな環境を調布の貴重な財産として次世代に引き継ぐため，平成26年3月に策定した「調布市深大寺・佐須地域環境資源保全・活用基本計画」では，地域の将来像として「～未来へつなぎたい，都心に近い里山 深大寺・佐須ふれあいの里～」として，深大寺・佐須の自然と共生しながらその豊かさを人々が共有できる里(地域)である『深大寺・佐須ふれあいの里』を目指すとしている。 ・ 「調布市基本計画（令和元年5月策定）」では，「深大寺・佐須地域の里山，水辺環境の保全・活用」を重点プロジェクト事業として位置付け，市民と協働での雑木林や田園風景の保全や都市農地の維持・活用等に取り組んでいる。 ・ 「調布市都市計画マスタープラン（平成26年9月改定）」においては，「都市農地の保全・活用」を施策に掲げ，地域の農地の魅力を広めるため，魅力発信の方法等を検討し，農業体験ができる農業公園の設置等の市民と農の場づくりに努めることとしている。

※ 別表第1に掲げる都市計画の決定状況を示す図は，別紙，都市計画決定状況図のとおり

3 育成地区における農地等の保全と活用するための方針

目 標
<p>深大寺・佐須地域を自然環境資源の保全・活用の重点地区として設定するとともに、モデル地域として先導的事業を展開し、地域の環境保全・活用を図る。</p> <p>自然環境の保全・活用の様々な取組を推進し、人々の生活・文化と密接に関わってきた用水、農業、周辺の崖線や谷戸の雑木林を核として谷戸の原風景とも呼ぶべき田園景観を維持しつつ、この地域に培われてきた歴史、生きもの、食、そして人々の活動と緑の豊富な住宅地を一体的に保全・活用し、深大寺・佐須の自然と共生しながらその豊かさを人々が共有できる里(地域)である『深大寺・佐須ふれあいの里』を目指す。</p>
取組方針
<p>(1) 地域の田園風景を保全するため、都市農地の営農継続につながる取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に残る農の風景を楽しめるスポットを紹介するパンフレットや市報等を活用し、農に親しむ環境づくりを進める。 ・農産物直売所マップを配布するなど、地産地消、地域農産物の流通等を促進する。 ・新たな農地保全制度の研究を図るなど、都市計画制度を活用した農の風景を継承する取組を進める。 ・農業用井戸（防災兼用）の活用により用水路の水量を確保するなど、営農環境の確保を図る。 ・地区内で生産緑地の営農継続が難しい農地は、農業委員会やJA等と連携・協力し、新たな貸借制度を活用するなど、担い手の確保に向けた取組を促進し、地区内農地の減少抑制に努める。 ・生産緑地の相続時等に斡旋等の取組を行っても農地の継続が困難な場合においては、公有地化を検討する。また、その場合には、都市農地の機能や役割を活かし、最大限多面的な活用を図る。 <p>(2) 国分寺崖線や谷戸の自然環境を保全・活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・崖線の緑、湧水などの貴重な自然環境や農の風景をまもり、生物多様性を保全する。 ・雨水浸透設備の設置等による湧水保全の取組を推進する。 <p>(3) 地域の環境資源の意義を理解し、その大切さを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市農地、崖線の緑地、谷戸や里山といった田園風景と調和した景観形成の取組を推進する。 ・地域の自然・農業・歴史等の魅力を発信するため、設置した案内（説明）看板を活用するなど、回遊性の向上を図る。 ・多くの市民が農と触れ合うことができる拠点として農業公園を開設する。 ・学校や市民団体等と連携した子どもたちの農業体験の場づくりを推進する。 <p>(4) 活動の輪を広げ、環境保全活動を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民・市民団体による環境保全活動の拠点である佐須農（みのり）の家を活用したイベントを実施する。 ・市民団体や市民との連携・協働による雑木林等の環境保全活動を充実する。 ・「崖線樹林地保全管理計画（深大寺自然広場）」に基づき、深大寺自然広場の保全管理を行っていく。 ・マルシェなどの農業イベント等の開催により、地域コミュニティの醸成を図る。

※ 取組方針を示す図は、別紙構想図のとおり